



16. 安満遺跡の3つの要素と出土品

1) 居住域

弥生の人々が日々の暮らしを営んでいた場所です。
住居や倉を囲んでいた環濠に白い石を敷き、人工芝の土手を廻らし整備されています。

内側には、旧京都大学高槻農場建物群が歴史拠点としてリノベーションされています。

2) 生産域

用水路や井堰を備えた水田があったゾーンの中に、段差が低い棚田のような小区画水田を再現しています。

横に古代米づくりができる田んぼや畑が用意されています。

「水田」にて古代米の田植え体験会が5月末に行われます。

3) 墓域

かつて集団墓地となっていた場所の一角に、土を盛って墓の一部を再現しています。

発掘された木棺も、発見された位置に写真陶板で表示しています。
説明版も設置されていて、当時の様子を描いています。

安満遺跡出土品

安満遺跡からは多数の弥生土器とともに、青銅製のヤジリや木製の農具、珍しい漆塗りのカンザシやクシ、勾玉などの装身具なども出土しています。